

# 日刊建設工業新聞

発行所 ©日刊建設工業新聞社 2012 〒105-0021 東京都港区東新橋2-2-10 電話03(3433)7151 URL:http://www.decn.co.jp/

(12)

2012年(平成24年)4月9日(月曜日)



## 竹林 征三

山口大学時間学研究所客員教授

「コンクリートから人へ」のキャッチフレーズのもとにダムやスロープ堤防をはじめとする公共事業が無駄なものとして中止や大幅に削減していく現政権に天罰(天譴)が下ったかのよう

に東日本大震災・大津波に見舞われた。その復旧も進まない中、追い打ちをかけるように台風12号、15号が上陸し、各地に甚大な被害と爪跡を残した。

熊野川の上流十津川等の川筋は急峻な山地に深い河谷が切りぎざまれている。そこに1000メートルの豪雨があれば、近年特に注目されている深層崩壊と

称する山地崩壊が起こる。狭隘な渓谷に崩落した大量の土塊は一瞬にして川を堰止めて大湖水を誕生させる。

新聞報道を見ると「土砂ダム」「土砂止めダム」「土砂崩れダム」「堰き止め湖」「河道閉塞」「天然ダム」等々用語の使用で混

然現象による災害はこれまでも頻繁に発生し、「天然ダム」と称してきた。既に学術用語としても定着し、天然ダムに関する博士論文、他学術報文もこれまで多くある。

## 天然ダムと河道閉塞は似て非なるもの

水が五つ形成され、その後の大雨でそれらが決壊すれば土石流の大洪水が生じ下流に大変な災害を及ぼすこととなるので連日、マスコミが土砂ダムの動向を伝えていた。

国土交通省は「河道閉塞」の名で記者発表しているが、報道各紙で「河道閉塞」の名称を採用しているところはない。「土砂ダム」「土砂崩れダム」の名称を採用している社が多いが、同じ社でも時により名称が混乱している。「天然ダム」を採用している社も少ないが見受けられる。

全国各地でこのような自然現象による災害はこれまでも頻繁に発生し、「天然ダム」と称してきた。既に学術用語としても定着し、天然ダムに関する博士論文、他学術報文もこれまで多くある。

その形成の要因と誘因からほぼまって、挙動特性も全く異なる似て非なる現象である。似て非なるものを擬きという。

天然ダムとは山間部を流れる河川において、大地震や豪雨が誘因となり崩れやすい山地(素因)が大崩壊して一瞬にして狭い深谷を堰き止める現象である。

河道閉塞は一般的には徐々に大きくなり大きくなれば寄り洲となる。天然ダムは、天然ダムの物理的大きさ(堤体積)と集水面積から集めてくる流入量との比によりその後の天然ダムは決壊するか、決壊せずに残るかの運命が分かれる。流入してくる水量に比して崩壊土砂量が十分に大きければ天然ダムは決壊しない。その結果、堰止め湖として残ることとなる。

所  
論  
諸  
論

マスコミの報道を見るにつけ気になって仕方がない

「天然ダム」の名称が採用している社が多いが、同じ社でも時により名称が混乱している。「天然ダム」を採用している社も少ないが見受けられる。

天然ダムとは山間部を流れる河川において、大地震や豪雨が誘因となり崩れやすい山地(素因)が大崩壊して一瞬にして狭い深谷を堰き止める現象である。

河道閉塞は一般的には徐々に大きくなり大きくなれば寄り洲となる。天然ダムは、天然ダムの物理的大きさ(堤体積)と集水面積から集めてくる流入量との比によりその後の天然ダムは決壊するか、決壊せずに残るかの運命が分かれる。流入してくる水量に比して崩壊土砂量が十分に大きければ天然ダムは決壊しない。その結果、堰止め湖として残ることとなる。

# 建設工業新聞